

1 単元 みんなで一緒にSDG's その②

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、第4学年「みんなで一緒にSDG's その①」において、SDG'sにおける「つくる責任、つかう責任」の観点から、探究を進めてきた。そこでは、「ごみを減らすためにできることをしたい」という思いから課題を立て、自分たちなりの答えを探っていった。活動の度に「ごみを減らす」という視点から自らの活動を振り返り、評価と改善をくり返しながらかの活動へとつなげていくことで、子どもはダンボールコンポストを使った生ごみの堆肥化という形で、思いを実現させた。このような子どもが、課題をさらに発展的に捉え、探究していくことで思いや願いの実現に向けて考えを深めていくことのよさやSDG'sとのつながりに気づき、自らの生活や行動に生かしていくことができるだろう。そこで、単元を構想するにあたっては、次のような題材を設定する。

＜題材について＞

本題材は、自分たちの身近な食生活からでるごみをどう有効活用していくのかを課題として設定することで、生ごみを有効活用することのよさや、SDG'sとのつながりに気づくことができる題材となっている。ここでは、自分たちで課題を立て、その思いや願いの実現に向けてできることを考え、実行していくことが大切である。そこで、SDG'sにつながる実践とそのよさを地域へ発信していく活動を設定する。子どもは、「どんなことを」「誰に」「どのように」「いつ」伝えるのかなどの視点を大切にしながら計画し実践していく中で、思いや願いの実現に向けて考えを深めていくことのよさやSDG'sとのつながりに気づき、今後の身近な人や社会との関わりの中で、自分たちにできることを考え、行動しようとしていくだろう。そのような学びを実現するために、指導にあたっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 単元の初めには、SDG'sにおける「つくる責任、つかう責任」の観点から生ごみや堆肥を有効活用する方法をさぐる場を設定する。そうすることで、子ども自身が課題解決に向けての思いや願いをもち探究的な学びの見通しをもつことができるようにする。
- 単元を通して、自分たちの計画や取組みを評価したり、見直したりする場を設定する。そうすることで、思いや願いの実現に向けて自らの探究を深めていくことができるようにする。
- 単元の終わりには、探究のプロセスを評価し探究活動全体を振り返る場を設定する。そうすることで、探究での学びを今後の身近な人や社会との関わりの中で生かしていくことができるようにする。

3 目標

生ごみの有効活用を目指した活動を通して、そのよさやSDG'sとのつながりについて気づき、身近な地域に表現する方法を考えるとともに自らの生活や行動に生かしていくことができるようにする。

4 指導計画（総時数 30 時間）

次	学習活動・内容	単元の指導上の留意点
一 ④	○ SDG's について考え、交流する。 ・地域・保護者に SDG's の取組を広げたいという思いや願い ○ 自分たちにできることを考える。 ・堆肥や生ごみの有効活用 ・コンポストの取組みの継続	○ 活動の初めにどんなことを何のために行うのかを確認する場を設定する。そうすることで、自分たちの思いや願いを基に、探究の目標や見通しを明確にもつことができるようにする。
二 ④ 本時 20 ／ 24	○ 生ごみを有効活用する取組について計画し実践する。 ・自分たちの思いや願い ・取組の方法の実現性 ・計画・実践の振り返り ● SDG's の活動を広げるための方法を話し合い、実践する。 ・地域とのつながり	○ 探究を進めていく際、「何を」「誰と」「どのように」「いつ」行うのかなど、視点を自分たちで決めて計画を立てさせる。そうすることで、その視点を基に振り返ったり、次の計画の方向性を確かめたりすることができるようにする。
三 ②	○ 自分たちの探究を振り返り、今後身近な人や社会との関わりの中で自分たちにできることを考える。 ・自分たちにもできる SDG's ・自分たちで活動を計画・実践していくことのよさ	○ 探究全体を子どもたちが振り返る場を設定する。そうすることで、探究活動を通しての成果や課題を見つめ次の探究活動に向けて学びを深めることができるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① SDG's や生ごみを有効活用する目的や意義に気付いている。 ② 生ごみを有効活用する取組や SDG's の考えを広げる取組を計画的に実施することができる。 ③ SDG's に取り組むことのよさへの気付きは、試行錯誤を繰り返し、自らが探究的に学習を進めてきたことの成果であることに気付いている。	① SDG's や生ごみを有効活用する目的や意義について考え、それに基づいて計画を立てている。 ② 生ごみを有効活用するための取組みを計画に基づいて実践している。 ③ SDG's に向けた身近な取組について他者に自分の考えが伝わるように目的に応じて表現方法を工夫している。	① SDG's や生ごみを有効活用する目的や意義を見だし積極的に活動に取り組もうとしている。 ② 探究の際に、異なる意見や考えを尊重しつつ、前向きに話し合おうとしている。 ③ 自分たちの話し合いや実践から、今後身近な人や社会との関わりの中で、自分たちにできることを考え、行動しようとしている。

6 本時案 ー第二次・20時分ー

(1) 主眼 これまでの実践を基にSDG'sの考えを地域に広げていく方法を話し合う活動を通して、活動の意義や目的について考え、より具体的な計画を立てることができる。

(2) 準備 タブレット、ワークシート

(3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 これまでの実践について振り返る確認する ・生ごみを活用した取組 ・計画の見通し	ア 草木染めでタオルを染めることで玉ねぎの皮を活用で来たよ イ 花を育てて押し花の葉を配ったよ ウ 私たちの取組みをもっと広げていくためにはどうしたらいいかな	・ 次の計画を立てるうえで何を話し合うべきかを確認する場を設定する。そうすることで、ゴールを見通した話し合いを行うことができるようにする。	5
2 SDG'sの考えを他者へ広げていくためにどんな活動をしていくのかを話し合う ・伝えたい思いや願い ・地域とのつながり ・話し合いの視点	ア 染めたハンカチや堆肥で育てた花の苗をマルシェで配ったらどうかな イ 自分たちで調べたSDG'sの取組みをレポートにまとめて一緒に配ったらいろんな取組みが紹介できると思うよ ウ 火曜マルシェについて調べないといけないね エ 何を伝えたいのかをはっきりさせないといけないね	・ 伝えたい思いや願いについて問う。そうすることで活動の目的を明確にし、話し合いに生かしたり、振り返りの視点としたりすることができるようにする。 ・ 「どんなことを」「誰に」「どのように」「いつ」伝えるのかなどの視点をもたせることで、計画の実現に向けてポイントを押さえた話し合いができるようにする。	35
3 話し合いを基に、学習を振り返り、今後の探究の方向性について交流する ・今後の活動の見通し ・話し合いの視点	ア 次の時間は、自分たちにもできる取組をレポートにまとめていくよ イ 火曜マルシェのお客さんにはどんな人たちがいるのかな ウ 次の時間の見通しがもてたよ	・ 話し合いの質や決まったことを振り返る場を設定する。そうすることで、話し合いの視点を価値付けたり、今後の活動の見通しをもったりすることができるようにする。	45

(4) 評価規準と方法

これまでの実践を基にSDG'sの取組を地域に広げていくための方法を話し合う活動を通して、活動の意義や目的について考え、より具体的な計画を立てることができているか、授業中の発言やワークシートの記述からみとる。

<メモ>